

國際學院埼玉短期大學
學生圖書委員會



国際

學院創立60周年記念号



koala vol.19



-新任の先生方のご紹介-

新任の先生方に読書アンケートにご回答いただきました。

今年は、幼児保育学科2名、健康栄養学科1名、
計3名の先生方をご紹介します♪

幼児保育学科

○馬場結子先生

学生におすすめの一冊

羽仁もと子著
『おさなごを発見せよ』
婦人之友社刊
これは授業で紹介した
羽仁もと子の育児論です。

普段読書をしますか

読書は日常生活における
楽しみの一つです。

好きな作家

A. リンドグレーン
彼女は子どもと女性の立場を
守るために尽力した作家です。

好きなジャンルとその理由

『児童文学』
子どもについて考察する上で
「原点」であると思います。

1 番好きな本

マリー・ホール・エッツぶん・え
よだじゅんいち やく
『わたしとあそんで』 福音館書店刊
これは子どもの時に
熱心に読んでいたものです。
懐かしい思い出があります。

わたしと あそんで



マリー・ホール・エッツ ぶん/え
よだ・じゅんいち やく

何回でも読める本

絵本はよく読みます。
学生に紹介する、又「おはなし会」で子どもたちに
読むこともありました。

○東敦子先生

学生におすすめの一冊

東田直樹著
『ありがとうは
僕の耳にこだまする』
KADOKAWA 刊

好きなジャンルとその理由

さまざまな人の人生の
追体験ができるので
エッセイをよく読んでいます。

忘れられない一文

「心の中の思いが、
私たちを創っている。」
ジェームズ・アレン著
坂本貴一訳
『「原因」と「結果」の
法則』
サンマーク出版刊

1番好きな本

ジャン・ジオノ原作
フレデリック・バック絵
寺岡 襄訳
『木を植えた男』
あすなろ書房刊



刺激を受けた本

相良敦子著
『お母さんの「敏感期」
モンテッソーリ教育は
子を育てる、親を育てる』
文春文庫刊

普段読書をしますか

常に何かを読んでいます、研究や仕事関係の書籍が多くて、「読書を楽しむ」という時間があまりもてていないのが残念です。

一生手元に残しておきたい一冊

岡本 夏木著『子どもとことば』
岩波新書刊

○園山薫先生

普段読書をしますか

仕事と子どもたちの成長を見守る日々を送り、読書から遠ざかった生活をしています。
一番好きなのはプールサイドで誰にも邪魔されることなく読みふけるスタイル。
そんな生活はざーっとしていませんが、

学生におすすめの一冊

吉村昭著

『白い航跡』

(講談社文庫刊)

私が学生に戻った最初の授業で「栄養士だったら、この本は読まなくては。」と言われ、当時図書館で借りて読みました。

何回でも読める本

シビル・ウェッタシンハ作絵

いのくまようこ訳

『かさどろぼう』

(徳間書店刊)

スリランカ人のとても温かく、おおらかな人柄がにじみ出ている作品で大好きです。
読んだ後に心が温くなる一冊です。



好きな作家



社会派ブロガーの「ちきりん」さんです。
長年ブログを愛読していて、出版した本は目を通しています。

一生手元に残しておきたい一冊


三浦綾子著 『泥流地帯』『続泥流地帯』

(新潮文庫刊)

とにかく泣かすには読み進められません。
我が家は夫と私で2冊ずつになってしまい、
そのうち子どもにあげようということになりました(笑)。



誰からも親しまれる魅力ある図書館に！
図書館長 馬場 和久



学院創立以来 60 年という長きに亘り多くの卒業生が社会に貢献し、今も信頼される保育者や栄養士、調理師として第一線で活躍しています。

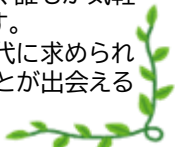
このような中、本学の図書館も学生の皆さんの成長を願い、日々の学修や研究に少しでも役立てるよう進化を遂げてきました。

課題レポートや卒業論文の作成、ネットワークの活用、卒業研究ゼミ等、来館する学生の数も年々増えてきています。必要図書を探すだけでなく、学修や生活上の悩みの相談に訪れたり、玄関脇に新設した個別コーナーを憩いの場として利用している学生もいます。本を愛する多くの方々のご厚意で設置されている本館 2 階のサテライト図書館には、思わず手にしたくなるような楽しい書籍がたくさん並んでいます。

また、学生図書委員会では、歴史ある機関紙『Koala』の発行や希望購入図書の検討、しおりの作成や図書館案内等、誰もが気軽に活用できる図書館づくりに力を注いでくれています。

変化の激しい今日にあって、本学の図書館はその時代に求められる新たな役割を果たすべく、情報と人、そして人と人とが出会える魅力的な空間としてこれからも前進していきます。

皆さんの来館をお待ちしています。



—学院創立者 大野誠先生の言葉—

幼児保育学科図書委員長

創立60周年記念号作成にあたり『Koala』創刊号を見直し、創立者である大野誠先生の“読書をすることで、生きる力になる”という言葉に共感しました。ここにその一部を紹介します。

「図書館利用の中心である読書は、人類のみが獲得した文化ではありますが、読書習慣を身に付けることは、知識の恒常的取得や国語力の向上のみならず、生きる力の獲得であり、一生の財産であるといっても過言ではありません。」(Koala 創刊号より抜粋)

図書委員のおすすめ本

群羊社食育教材企画製作室編

<健康栄養学科>

『献立作りが面白くなる！2段式毎日のおかずのヘルシー献立 組み合わせ自由食育カードブック』 群羊社刊



【オススメポイント】

上段に主菜、下段に副菜が30品写真付きで紹介されています。

上下のカードが分かれているので、パラパラめくると900通りの組み合わせが出来ます。さらには、1食分の分量で書かれているため、細かな計算はしなくても大丈夫！また、どの組み合わせでも、約350kcal、塩分2g以下になっています。

主食を決めたら、あっという間に献立の出来上がり。

藤井葉子編著

『発達障害児の偏食改善マニュアル 食べられないが食べられるに変わる実践 食べられるってうれしいね』

中央法規出版刊



【オススメポイント】

「偏食＝好き嫌い」ではありません。発達障害児にとって、偏食はそれしか食べられない、ということです。偏食は時間の経過によって改善される事は難しく、食べられる食品が少ない事での健康への悪影響もあります。

栄養士、調理師、保育者として、様々な立場から、「食べる＝楽しい」と思える子どもを増やす手助けになる一冊です。

～「知る」よりも「感じる」こと～



レイチェル・カーソン 著
上遠恵子 訳 森本二太郎 写真
『センス・オブ・ワンダー』
新潮社刊

『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではないと固く信じています。」という一文に、私はとても勇気づけられました。

筆者は、保育者として大切なことは、子どもが知りたがるような道を切りひらくことや、自然のなかで子どもといっしょに感動し、気持ちを分かち合うことだと明言しています。

分かりやすい言葉だけれど、鋭く端的な文章の連続で、心に訴えてくる強さがあり、普遍的な考えを教えてください。1冊です。

～1本の木、1枚の葉の美しさに気づく～



くさはらかな さく
『いろいろおちば』
ちいさなかがきのとも
2023年11月号
福音館書店刊

描かれているすべての葉は1本の桜の木から落ちたものであり、1枚の葉は半日～1日かけて丹念に描かれています。手に取れそうなくらい写実的な絵は、まるで植物図鑑のようでありながら温かみもあり、感触や音までも想像させます。

虫食いの跡、破れ、裏面、枯れた様子なども忠実に再現され、ありのままの自然を尊重し、その美しさや不思議さを伝えてくれます。

葉をじっくりと見つめ、いろいろな個性に気づき、そこから始まる自然の壮大な物語に思いを馳せるきっかけになると嬉しいです。

令和5年度学生図書委員会活動報告

健康栄養学科図書委員長

【しおりチーム】幼児保育学科副委員長

しおりチームは、2つの学科の特徴を捉えたしおりを作成しました。どのしおりもチーム全員がそれぞれ異なったデザインで作成したもので、どれを使用しても、楽しく本を読み進めることができます。

【ポスターチーム】健康栄養学科副委員長

ポスターチームは、秋の読書週間に向け、個々がおすすめる専門書や小説などのポスターを作成しました。また図書館入口、サテライト図書館、各教室に掲示し興味を示して貰えるように工夫しました。

【Koala チーム】健康栄養学科委員長

学院創立60周年に向けて、普段の『Koala』とは違う形で作成し、誰にでも手に取りやすいようなデザインにしました。素敵なものになったので、私たちの『Koala』を見て、図書館を利用する方が増えたらいいなと思います。

学生図書委員会機関紙 Koala 19号

2023年12月11日

編集・発行 国際学院埼玉短期大学学生図書委員会

〒330-8548 さいたま市大宮区吉敷町2-5

Tel:048(641)7468 Fax:048(641)7432

E-mail:tosyokan@kgef.ac.jp

ありがとう

